

今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会 最終とりまとめ概要

1. 検討の背景

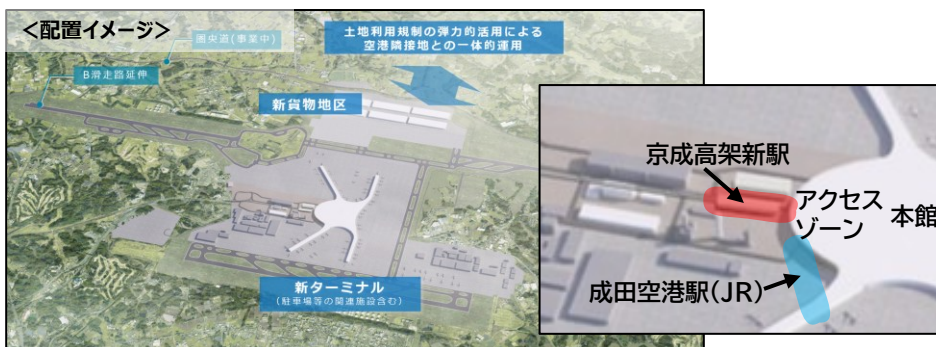
- 成田空港においては滑走路の新增設等を内容とする「更なる機能強化」が進められており、これにより年間発着容量が34万回から50万回に増加。
- これに伴って旅客・貨物の取扱が大きく増加※することから、旅客取扱施設、貨物取扱施設、鉄道アクセスの機能強化が喫緊の課題。

※ 50万回時において、旅客数は年間7,500万人（2025年度実績：4,259万人）、貨物量は年間300万トン（2025年度実績：206万トン）

2. 旅客取扱施設

【配置・形状】

- 集約ワンターミナル方式によるロングピア型の施設整備を目指す。
- ワンターミナル化までの間既存施設を活用しながら段階的に整備。



<段階整備のイメージ>



【機能】

- 旅客取扱施設は空港の顔であり、人・航空事業者等に選ばれ続ける質・魅力を兼ね備えた施設を整備。交通結節点、商業施設・オフィス等の都市機能を持たせ、滞在価値を最大限高める施設展開。
- 鉄道等の二次交通との接続拠点として、駅と直結させて、直感的で分かりやすい動線を確認することに加え、「SORATO NRTエアポートシティ」との連携拠点の役割を担う施設づくりを目指す。

<新ターミナルと駅の接続エリアのイメージ>



<ターミナル内の新モビリティのイメージ>



- 世界最高水準の乗継利便性を実現するための新ターミナル内及び新旧旅客取扱施設間への新たな交通システムの導入等を目指す。
- このほか、世界最高水準のDXの導入、ウェルビーイング施設の整備、ビジネスジェット施設の整備、脱炭素化、構内道路施設の整備も実施。

(※) 今後の検討状況や関係機関との協議等により、形状変更等が生じる場合がある。

今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会 最終とりまとめ概要

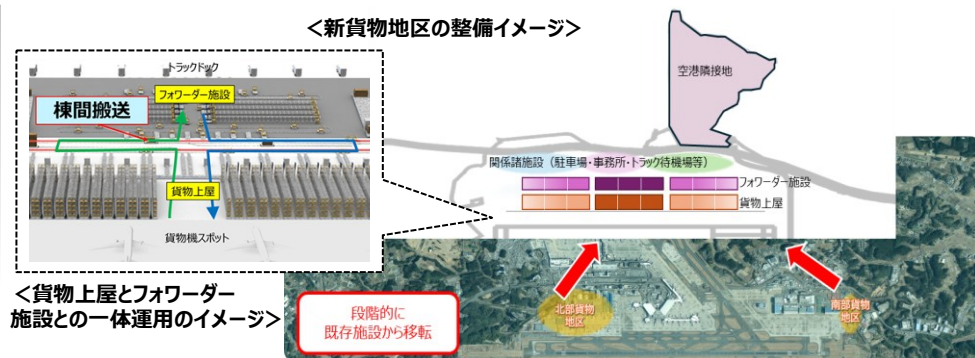
3. 貨物取扱施設

【配置】

- 空港敷地内で分散している国際航空物流機能を集約。
- 新貨物地区と圏央道を挟んで隣接するエリアとの一体的運用を図る。

【機能】

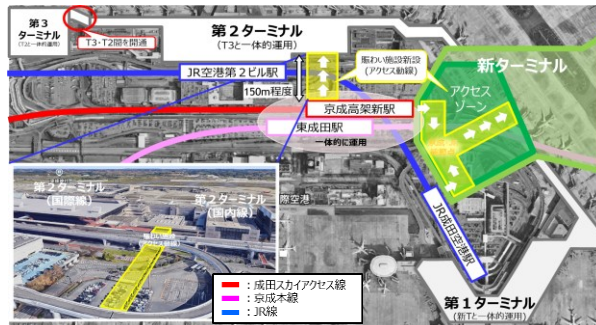
- 自動搬送システムの導入など世界最高水準の効率性等を実現。新貨物地区と隣接地、成田・羽田間の貨物搬送の自動化等も目指す。
- 都心とのアクセス等を考慮した広域道路ネットワーク整備の検討を推進。



4. 鉄道施設

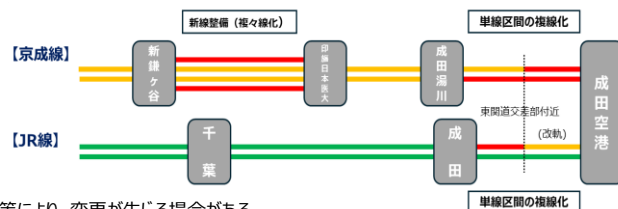
【空港駅の改良等】

- 成田スカイアクセス線について高架新駅等を整備。JR線は両空港駅を活用してホーム増強・両駅間の複線化。



【その他の改良等】

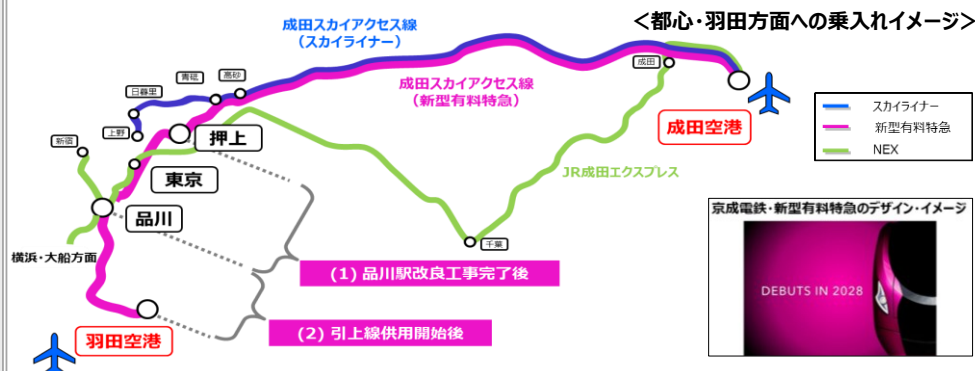
- 空港敷地外においても複線化や新線整備等を実施。



(※) 今後の検討状況や関係機関との協議等により、変更が生じる場合がある。

5. 都心乗入れ

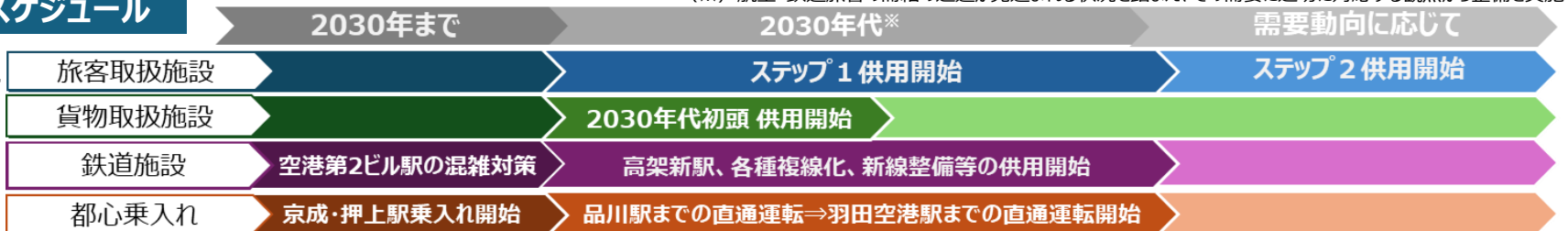
【京成電鉄の新型有料特急の都心・京急線羽田方面への乗入れ等】



鉄道事業者間等で引き続き、技術面・運用面の課題について協議。
このほか、JR東日本の羽田空港アクセス線（仮称）を活用した乗入れの検討が望まれる。

6. 今後のスケジュール

- 更なる具体化に当たっては検討体制を構築し、今後の諸条件の変化を踏まえ柔軟に対応。



(※) 航空・鉄道旅客の需給の逼迫が見込まれる状況を踏まえ、その需要に適切に対応する観点から整備を実施

(参考) 今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会

設置目的

成田空港における旅客施設・貨物施設等の空港施設整備や都心・さらには羽田空港との鉄道アクセスといった今後の成田空港の施設面での機能強化について、事業者を中心とした幅広い関係者による議論を行うため「今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会」を設置

メンバー

委員長：一橋大学名誉教授 山内弘隆

委員：日本大学理工学部長・成田空港地域共生・共栄会議副会長 轟朝幸

東京大学先端科学技術研究センター教授 伊藤恵理

桃山学院大学経営学部教授 西藤真一

航空事業者（全日本空輸（株）・日本航空（株）・日本貨物航空（株））

鉄道会社（東日本旅客鉄道（株）・京成電鉄（株）・京浜急行電鉄（株）・成田空港高速鉄道（株）・成田高速鉄道アクセス（株）・東京都交通局）

空港会社（成田国際空港（株）） 地方公共団体（千葉県） 国土交通省（航空局・鉄道局）

関係機関：東京都都市整備局

開催実績

○第1回検討会 日時：令和6年9月24日（火）

＜議事要旨＞

- ・成田空港の機能強化とあわせて旅客取扱施設や貨物取扱施設等の整備を行うことの重要性を確認。
- ・十分な取扱容量、乗継を含めた利便性や快適性、効率性等の様々な観点を踏まえた上で、今後成田国際空港株式会社により空港施設の整備が行われることが必要であることを確認。

○第2回検討会 日時：令和7年3月14日（金）

＜議事要旨＞

- ・成田空港の「更なる機能強化」で発着容量が50万回となることにあわせて、成田空港の主要なアクセス手段である鉄道アクセスについても対応する必要があることを確認。
- ・特に空港駅、空港周辺の単線区間、都心や地方送客拠点へのアクセスといった課題があり、これらについて、今後予測される鉄道利用旅客の増加に十分に対応できる輸送力を備えるべきこと、また、速さ、便利さ、わかりやすさといった利便性を備えるべきことが確認され、その対応の方向性などを議論。

○第3回検討会 日時：令和7年6月5日（木）

＜議事要旨＞

- ・中間とりまとめを行い、最終的なとりまとめに向けて関係者において今後更なる検討を進めていくことを確認。